

## 正月を迎える準備

令和5年も余すところあとわずかとなってきました。

令和になって、世界中の人は「新型コロナ」という「禍(わざわい)」の中で生きてきました。

今春、まだまだ「終息」した訳でなく、「収束」という判断がなされ、いろんな制限も緩和され、コロナ前の生活になりつつあります。

今年の年末、来年の年始は、きっと、元気を取り戻せる賑やかな年末年始となると思います。

年末年始を迎える準備も随分簡素化され、様変わりしてきました。

「昭和レトロ」がブームになって、TVや雑誌等でも取り上げられております。

「昭和」という時代が良かったとは決して思いませんが、つついそのノスタルジアに浸ってしまいます。



「明治」、「大正」、「昭和」の時代には、私たちの国は「戦争」を経験しました。

「平成」の時代は、「バブル崩壊」「地下鉄サリン事件」「阪神淡路大震災」等もあり、決して、「戦争」に巻き込まれなくても、果たして平和な時代だったのか、と考えてしまいます。



昭和時代の小俣町の正月を迎える準備についての記録(小俣町史)が残っているので、紹介させていただきます。

正月の準備は、年末に、ススハライ、ハカソウジなどからはじまる。

古くは12月の10日すぎに行われていたようであるが、最近では、27・8日頃になった。

ススハライは笹竹を用い、父親か息子が行う。しめ縄は、自家製のものであったが、現在は買って来る場合が多い。「一夜飾りはいかん」と言われ、28日か30日が多い。正月飾り(しめ、ツボキ、餅など)は屋敷の門、戸口、神棚、庭、井戸(水道)、クド(かまど)、戸棚(えびす大黒)などに供えるが、家によって若干、異なるようである。戸口のシメは一年中かけておく、東新村や西新村ではシメの木札は年々ジンジの折に燃やすが、シメだけは年々重ねていく。

家に不幸があつて初めてはずす。シメの数が多いほど縁起がよいといわれている。

下小俣ではシバキリヤマから、シバを伐ってきて、屋敷内の表庭に供える。

これをトシガミといっている。モチツキは、うの日、うまの日、とらの日、三りん亡などはさけるとか、29日は苦餅といつてさける。

この地方の餅はお供えるカガミ餅はセチ、もちろん丸餅であるが、雑煮に使う餅は、丸餅か切餅である。西新村では小さな重ね餅をセチ、オセチといい、神棚やエバス大黒に供え、大きな重ね餅をカガミモチといって、オクドサンの上に板を置き、その上に供えている。

大晦日の夜をオオツモゴという。黒豆・れんこん・大根・にんじん・油あげの煮物を食べる。



# 今年もやります 官舎神社年越しイベント

小俣まちづくり協議会(夢townproject委員会)は、今年も「思い出Project」を下記の日程で実施します。

日時:12月31日(日曜日)、19時~25時まで

場所:JR宮川駅裏、官舎神社境内

販売品目:たい焼き(100円)・チョコ苺(100円)子供優先・きしめん(200円)。



昨年はお子様連れの参拝者が早くから訪れていたため、今年も販売開始時間を早めました。

販売数には限りがありますので売り切れの場合もあります。

子供たちに楽しい思い出を！

御家族で年越し詣りへ御越しください。



## 記録に残る小俣町の災害

昭和46年8月30日の台風により午後7時30分の警報以後、豪雨により外城田川氾濫、架設中の若山橋右岸橋脚堤防決壊で濁流が大久保地区に流入しました。町営大久保住宅の住民は小学校に避難し、自衛隊の応援で土のうを積みました。



翌31日にも浸水により大久保の3家族が公民館に収容され、近鉄小俣駅付近には水が滞溜して、排水作業を行ったとのことでした。

編集後記

令和5年を振り返ってみると、台風被害は少なかったものの、夏の猛暑は「観測史上」という言葉が相次ぎました▼長かったコロナのトンネルも抜け出した感が出てきました▼ロシア・ウクライナに続き、イスラエル・パレスチナの悲しい争い▼明るいニュースは、「大谷翔平」「藤井聡太」という超人的若人の活躍▼プロ野球のアレ...阪神タイガースの38年ぶりの優勝、日本一

## 小俣まちづくり協議会

〒519-0505 伊勢市小俣町本町3番地 小俣町合同会館内

☎ 0596-65-7788 Fax 0596-65-7789

E-mail [obata.com@chorus.ocn.ne.jp](mailto:obata.com@chorus.ocn.ne.jp) URL <http://obatamk.sakura.ne.jp>

(事務局オープン時間帯 原則 月~金の午前9時~午後0時00分)